

南山の風

あけましておめでとうございます

2015年(平成27年:乙未)が始まりました。輝かしい新年の幕開けに、日頃から南山寮の子どもたちを応援して下さる皆様に、あらためて感謝を申し上げます。

1月1日現在、南山寮には54名の子どもたちが暮らし、今月中には1名増えて55名になることが決まっています。私たち職員一同は、子どもたちが直面するハードルを自身で力強く乗り越え、地域社会のお役に立てる人材となってくれること、夢と希望を心にしっかりと刻んで、まっすぐに育ってくれることを切に願いながら、その育みが少しでも豊かなものとなるように全力でサポートする所存です。今年も、南山寮の子どもたちを温かく見守り、その育ちに温かな一助をいただければ幸いに存じます。

今年は、南山寮を卒業して社会に巣立つ高校3年の男子児童が1名おります。既に就職先が決まっており、3月までに自動車運転免許を取得した上で南山寮を離れ、一人前のしっかりした社会人として、この国や地域社会の未来を担う人材になってくれることを願うばかりです。

今年は干支でいうと乙未(きのとひつじ)の年です。ヒツジという動物は、なんと紀元前7千年の古代メソポタミア時代から家畜化され、人間と共に暮らしてきたのです。その毛(羊毛)、肉(羊肉)、乳(羊乳)は長い長い歴史の中で私たち人類の生命と生活を支えてきてくれました。ちなみに、ヒツジ生産大国として知られるニュージーランドの人口は450万人ですが、ヒツジはその10倍を超える5000万頭いるそうです。



Santa and Friends Nagoya クリスマスパーティ

12月7日(日)、Santa and Friends Nagoyaの皆さんが、南山寮・駒方寮・名広愛児園・慈友学園の子どもたちを対象としたクリスマスパーティを、名古屋国際高校の体育館にて開催して下さいました。子どもたちがとっても楽しみにしているSFNのクリスマスパーティには、恒例のワークショップ(ゲームコーナー&体験コーナー)が複数用意されています。The Sound Webの演奏によるクリスマスソングを楽しんだ



後、子どもたちはそれぞれのワークショップへと駆け出していきました。「割り箸鉄砲」「クリスマスカード作り」「ジンジャークッキーのデコレーション」「クリスマスビンゴ」「パターゴルフ」「バルーンアート」「マジックコーナー」など、どれも子どもたちの好奇心とチャレンジ精神を刺激するものばかりです。



ワークショップの戦利品（賞品）としてお菓子をゲットした子どもたちは、さっそく頬張りながら次のコーナーへと移動していました。今回、特別企画として施設対抗のドッジボール大会がありました。勝利者チームには、賞品として

妖怪ウォッチのグッズがもらえることになり、俄然張り切った南山寮チームは、優勝をもぎとり、妖怪メダルを手にしたのでした。

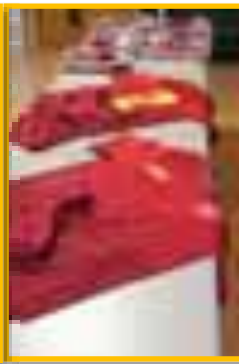
そして、パーティのフィナーレにサンタクロースが登場。子どもたちはリクエスト通りのプレゼントを手にし、ニコニコの笑顔。サンタさんを真ん中に記念撮影に臨んでいました。

Santa and Friends Nagoya の皆さん、毎年子どもたちのためにいろいろな企画を考えて下さり、本当にありがとうございます。



善意サンタとランチバイキング

社会福祉法人中部善意銀行さんには、児童福祉施設運動会やフットサル大会など、数々の行事でお世話になっており、また、企業様や団体様からの寄贈品や招待行事の仲介の労をとっていただいています。この12月には、中部善意銀行サンタさんが南山寮を訪問して下さったばかりか、名古屋観光ホテルでのランチバイキングご招待にもご尽力いただきました。



12月11日（木）、中部善意銀行副理事長の小山さん扮する善意サンタが南山寮を訪問し、南山寮の女子フットサルチームにユニフォームを、そして子どもたち全員に袋詰めお菓子を手渡していただきました。幼児さんたちは、突然目の前に現れたサンタさんに大喜びで、順番に抱っこをおねだりしていました。

12月13日（土）には、名古屋観光ホテルさんからのランチバイキングへの招待にあたって、中部善意銀行さんが南山寮を選んでくださいました。今回の対象となったのは小学生全員。名古屋随一の一流ホテルでの食事ということで、引率職員が緊張の面持ちで正装しているのを見て、子どもたちもいつもよりお行儀よくしてくれました。さて、ホテルに到着すると、子どもたちには素敵なサプライズが待っていました。なんと、フィンランドから本物のサンタクロースが来日しており、子どもたちに大きな紙袋に入ったプレゼントを手渡し





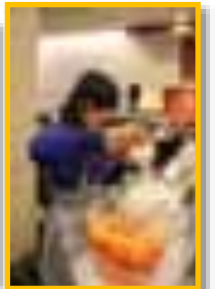
て下さったのです。その中には、素敵なおもちゃや文具と一緒に、フィンランドから来た本物のサンタクロースに会った証明書が同封されていました。

南山寮の子どもたちがサンタクロースからプレゼントを貰っている様子を中日新聞社が取材して下さいました。新聞記者さんからインタビューを受けた小学6年生の女の子は、初体験の取材に堂々と答えていました。その模様は翌日の朝刊に掲載されたのです。



その後、いよいよ子どもたちが待ちに待ったランチバイキングへ。名古屋観光ホテル1階のジャルダンというレストランに案内されると、目の前には素晴らしいご馳走が並んでいました。子どもたちが特に気に入ったのは、普段南山寮では絶対に食べるのでできないズワイガニでした。カニを初めて口にする子どももたくさんいました。

子どもたちはカニの食べ方がわからず、職員が食べ方を教えて、すぐにマスターしてカニと格闘を始めました。そして、もう一つの人気メニューが肉のステーキでした。シェフが目の前で調理して下さるお肉を何回もお替りしている子がいました。後半になると、子どもたちの関心はデザートに向き、見るからに高級そうなケーキやアイスクリームを口にして、満面の笑顔でした。



名古屋観光ホテルさんと中部善意銀行さんの温かなお気持ちにより、子どもたちはいくつもの貴重な体験をすることができました。子どもたちの心の育ちにご支援を下さる皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

インドヨガのジャズさん来寮

12月18日、以前南山寮を訪問し、子どもたちにインドヨガを教えて下さったジャズ・プレゼンスさんがハワイから来日され、お仲間の皆さん（ヨガの日本の生徒さん）と共にサンタクロースの衣装に身を包んで、南山寮の子どもたちに会いに来て下さいました。クリスマスの歌を歌ったり、踊ったりしながら、

徐々にヨガの体験に移行し、子どもたちもジャズさんたちのポーズを上手に真似していました。ヨガがどんなものなのかわからなくても、さすがに子どもたちは柔軟で、職員よりもずっとヨガへの順応性が高く、



驚かされることも度々ありました。ジャズさんの滞在時間はあっという間に過ぎ、いよいよお別れするとき、ジャズさんの生徒さんが作って下さったポップコーンとパウンドケーキを、ジャズさんから子どもたちにプレゼントして下さいました。さらに、皆さんが来ていたサンタクロスやトナカイの衣装も子どもたちに下さり、子どもたちは早速衣装を身に付け、大はしゃぎしていました。

ちなみに、この衣装は、南山寮のクリスマス夕食会でも活躍していました。



MDRTのクリスマスビンゴ

12月22日(月)、2学期終業式の午後、東京海上日動あんしん生命およびアクサ生命の社員の方々によるMDRT東海ブロックの方々が20名ほど来寮され、クリスマスビンゴ大会を開催して下さいました(MDRT東海ブロックについては6ページのコラムを参照ください)。MDRT東海さんによるビンゴ大会は今回が記念すべき10回目でしたが、ふれあいホールが照明LED



化工事のため使用できず、地域交流スペース(多目的ホール)での開催となってしまいました。手狭なスペースに50名もの子どもたちと30名ほどの大人が集まったため、例年に輪をかけて熱気を帯びたビンゴ大会となりました。いつも子どもたちが大喜びをする素敵なおもちゃを用意して下さいるので



すが、今回はヘリコプターや自動車のラジコンがいくつもあり、子どもたちが虎視眈々とラジコンを狙っていました。BINGOになって最初から決めていたおもちゃに一直線に向かう子、たくさんのおもちゃを前に逡巡して悩み続ける子、職員の予想を裏切る選択をする子、一番にリーチになったのになかなかBINGOにならない子と様々でした。



熱気ムンムンの1時間が過ぎると、みんなニコニコ顔で賞品を抱っこしていました。アナと雪の女王の衣装を手にした子はさっそく試着して見せに来てくれました。

フットサル決勝大会 小学生優勝!

12月23日(祝)、TEVAオーシャンアリーナにて名古屋市児童福祉施設フットサル大会決勝大会が開催されました。11月の予選大会では、小学生チーム、中高生チームとも予選1位で決勝大会に進み、決勝大会での優勝という夢が膨らみました。女子チームは惜しくも予選敗退となりましたが、サブアリーナでのトーナメント戦で悔しさをバネに雪辱を晴らしてくれることを期待しての大会参加となりました。

女子チームは、中部善意銀行さんから寄贈していただいた真新しいユニフォームに身を包んでの初陣となりました。しかしながら、相手の守備に阻まれてなかなか得点できないばかりか、少しの油断で相手に得点を許してしまう展開が続き、まさかの3連敗…。いよいよ最後の試合、お昼に食べたカレーライスが奏功したのか先制点をゲットしたあと、連続得点を決め、有終の美を飾ってくれました。

昨年完全優勝し、優勝候補筆頭との呼び声の高かった中高生チームは、順調に2試合を勝利しました。





しかし、最後の晴光学院戦…相手が強かったのか、ちょっとした油断からなのか、最後の最後に2連続得点を決められてしまい、そこでタイムアップ。結果は惜しくも準優勝でした。

小学生チームのメンバーは例年より小粒で、正直なところ戦前の予想では優勝の二文字は考えられていませんでした。

それが、いざ決勝大会を迎えてみると、フットサルを指導している職員も首を傾げるほどの快進撃で、圧倒的な得点力を見せてくれ、連戦連勝！なんと完全優勝を果たしてくれたのです。



優勝チームには、名古屋のプロチームである「名古屋オーシャンズ」の選手たちとの親善試合というご褒美があり、プレーしながら、あこがれのプロの技術を間近で見られるという素晴らしい体験ができました。



表彰式にて、優勝した小学生チームと準優勝した中高生チームには、中部善意銀行の石木常務より賞状と盾、そして記念品が授与され、代表児童が誇らしげに受け取っていました。そして最後は、大会恒例となった名古屋オーシャンズの選手との記念撮影。この日一番の笑顔が輝いていました。



表彰式にて、優勝した小学生チームと準優勝した中高生チームには、中部善意銀行の石木常務より賞状と盾、そして記念品が授与され、代表児童が誇らしげに受け取っていました。そして最後は、大会恒例となった名古屋オーシャンズの選手との記念撮影。この日一番の笑顔が輝いていました。



新年に向けてお餅つき！

12月26日（金）、お隣の高齢者施設南山の郷の皆さんと合同で、お餅つきをしました。新年を迎えるにあたっての年の瀬の行事です。南山寮が使うもち米は、毎年、三重県志摩市の農家の中尾さんが寄贈して下さっています。お餅つきは、子どもたちも楽しみにしていて、順番にべったんこ、べったんこと重い杵をふりあげます。子どもたちの狙いはもち



ろん、搗きたてホヤホヤのお餅です。南山寮では、黄粉、つぶ餡、大根おろしの3種類をまぶしたお餅が定番です。第1陣のお餅は10時には搗きあがるため、かなり早い昼食となるのですが、食べ盛りの子どもたちには関係ありません。みんなで外で食べる



る食事は美味しく、旺盛な食欲を発揮してくれます。厨房ではいつも、お餅の共に味噌汁と沢庵を用意してくれるのですが、これが子どもたちに大人気。あっという間になくなってしまうのです。



今回は、南山の郷の利用者さんと合同での企画でしたので、例年より大人数でお餅つきを楽しむことができました。元気な利用者さんが杵を大きく振りかぶり、力強くお餅をついている姿を拝見しました。車椅子の利用者さんもその様子を笑顔で眺め、楽しそうでした。途中、保育園の園児さんも見学に来て、賑やかな年末の行事に花を添えてくれました。



2015年も愛知育児院に暮らす全員が楽しく元気に過ごせることを祈念しつつ、お餅を新しい年へのエネルギーへと変換した一日でした。

毎年2学期の終業式の頃になると、MDRT日本会東海ブロックの皆さんが20名ほど来察され、子どもたちのためにクリスマスビンゴ大会を企画して下さいます。MDRTとはMillion Dollar Round Tableの略です。世界71の国と地域の470社以上で活躍する42,000名以上の会員から成る、卓越した生命保険と金融サービスの専門家による国際的な組織です。南山寮には、東京海上日動あんしん生命さんとアクサ生命さんの2社のMDRT会員さんが来て下さっています。平成17年に始まったこの企画はついに10周年を迎えました。ビンゴの賞品は子どもたちのお小遣いではなかなか買うことのできない大きなおもちゃ…MDRTクリスマスビンゴ大会は毎年子どもたちの熱気に包まれます。



コラム 南山隼人 新たなセーフティネットへの期待

わが国のセーフティネットは雇用、社会保険、公的扶助（生活保護）の3層構造から成っている。この形態は先進諸国ではある程度共通したものであるが、日本では労働者の3人にひとりが非正規労働者となっている。雇用のネットが機能せず、社会保険や公的扶助のネットによる下支えを必要とするも、制度の壁に阻まれて最後の網の目からも漏れ落ちてしまつていく状況が生まれている。

税・社会保障制度についての国際比較の視点(OECDレポート)から、わが国のセーフティネットの特徴と改善点が明らかになった。1点目は、法定最低賃金が低く、失業保険の受給期間も短いことである。その給付は、非正規職であっても就業と同時に打ち切られる。若年失業者給付が制度化されておらず、失業保険給付を受給できない者を対象とした失業扶助制度もない。2点目は、社会扶助制度がOECDの中で最も包括的・体系的で、生活費の各分野を網羅でき、給付水準もトップクラスにありながらも、受給者の割合が極めて低く、その結果、ワーキングプアが多数存在することである。3点目は、ワーキングプアに代表される低所得層に対して、最も所得の底上げを期待される社会手当の整備が遅れていることである。日本には住宅給付が存在せず、家族手当の水準も低い。4点目は、子を持つ低所得層の就業促進と所得保障を主たる目的とする税額控除制度が、わが国には未だに導入されていないことである。

OECDレポートによれば、日本では社会扶助を受給した場合の純所得の水準は国際的にみて高いが、失業保険受給期間終了後で社会扶助を受給していない者の純所得は最低位の水準にある。わが国では、「社会保険と社会扶助という2層目、3層目のセーフティネットの恩恵を享受できない」、そして「正規職労働者と生活保護受給層の狭間に多数存在する」ワーキングプア層への所得補償措置が採られていないことがわかる。その原因としては、わが国の社会保険制度が、今日のような非正規労働者の増加を想定せずに制度設計されており、厚生年金制度や失業保険制度はワーキングプアを包摂せずに排除する性格が強いものとなっていること、その一方で、公的扶助制度である生活保護制度の受給者数割合が低いことが挙げられる。

OECD諸国で制度化されているような社会保険と社会扶助の間にある、生活保障機能を担うセーフティネットの創設、つまり、現在の3層構造から4層構造のセーフティネットへの再編の必要性から、平成27年4月、生活保護制度の見直しと併せて生活困窮者支援制度が施行されることとなった。子どもの6人に1人が貧困来院以下で生活する日本において、安全ストッパーの役目を果たすセーフティネットとなる制度であることを期待したい。(リョウチョウ)

平成27年 1月号

(月刊：毎月1日発行)

<明治19年10月 第三種郵便物無認可>

発行：社会福祉法人 愛知育児院
児童養護施設 南山寮

編集責任者： 施設長 山田 勝己

〒466-0835 名古屋市昭和区南山町5番地

TEL (052)831-3750 FAX (052)835-7483

e-mail: nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp